たいよう

発　行　所
太洋基礎工業㈱
たいよう新聞委員会

最前線レポート

工事件名
公共下水道高蔵寺浄化センター汚泥処理設備ポンプ室改築工事

発注者
春日井市上下水道部　下水建設課

工事場所
春日井市気噴町（高蔵寺浄化センター内）

工　期
令和元年八月二七日～令和二年三月一三日

工事概要
ディープウェルφ五〇〇㎜　L＝二二・〇九m（ベノト方式）二箇所
鋼矢板打設工（クラッシュパイラー併用）SP―Ⅲ型　L＝九・五〇～一〇・五m　合計一二二枚
立坑掘削・土留工
立坑寸法一一・二m×一三・二m・二段梁　H＝六・一～七・一m

当現場は春日井市と名古屋市の境界を流れる、庄内川の春日井市側にある下水道浄化センター内での工事です。この浄化センターは庄内川から急峻に上った所にある為、土質も巨石混じりの玉石砂礫層と粘土層の互層となっています。現在ディープウェルを二箇所設置し、鋼矢板をクラッシュパイラー併用にて圧入工事を行っています。稼働中の浄化センター内での作業であるので、処理業務の妨げになってはならず、搬入出作業時の綿密な時間調整及び誘導を徹底しなければなりません。また常日頃から処理臭が出てしまう為、周辺住民の方々に理解していただけない時もあり（これは大体どこの処理施設でもある問題かと思われます。）、車両待機や騒音に対して過敏に反応されてしまう場合があります。その為待機場所や不必要な音にも気を使わなければなりません。実際ラジオ体操の音がうるさいとの事で、極力静かに朝礼を行うようにしております。

稼働中の施設を改築する為、限られた作業スペース・打設箇所で行わなければいけません。今回現場打合せの段階で、ディープウェルの打設位置が、図面通りだと機械の配置的に無理があり、打設可能な箇所に変更する必要がありました。しかし、今度は変更した打設位置を試掘すると、不明管・不明配線が出てきて、行先を確認していくと立坑にまで影響していることが判明しました。図面にも出ていない為、調査・切り回し及び撤去をしてもらう為に時間がかかり、全体工程に影響が出てくることになりました。幸い試掘をしたおかげで施工前の段階で発見・対処できました。さらに鋼矢板打設箇所も試掘を行ったことにより、現在は順調に施工できております。古い施設の場合、増改築を繰り返すうちにこの様なことになるのは十分に考えられます。今後もそのような施設内を施工する際には十分な調査、及び試掘等を行った事前調査が重要だと改めて認識させられました。

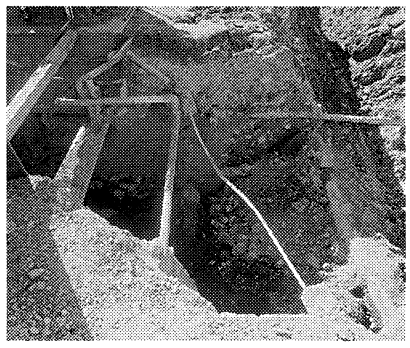
また、当現場は立坑が大きい為、設計で立坑中心部に十字梁をつけるようになっていますが、当然構造物を構築していく際には非常に邪魔になってきます。そこで火打梁で持たないか検討し、変更してはどうでしょうか？（自由仮設なので承諾変更しました。）立坑の昇降設備も動線や躯体の打ち上げに伴って撤去していけるように位置や昇降方法の提案等専業者として、より現場が安全・低コストで無駄が無いように進められるように協力や手間を惜しまずに準備を進めています。

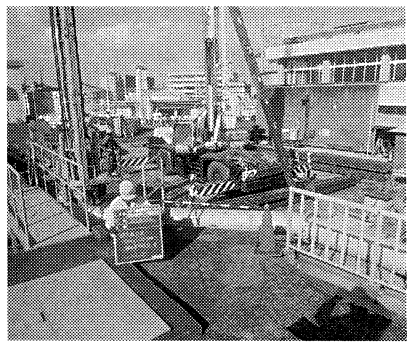
年内に立坑掘削完了引渡しまで行い、安心して年末年始を迎えられるように、工程・安全を先読みして管理していきます。

最後に安全・良質な工事をすることは、現在では当たり前です。そこからさらに専業者として求められる知識・技術をお客様や当社の為にどう使って、共栄していくかが大事だと思います。

今年も残り一カ月となりますが、皆様も脳内シュミレーションをして、安全は先取り・トラブルは回避を先読み、万が一の時の対応を数手考え準備していけば、心穏やかに休みを取れる事と思います。

今回、元請様とは初めて工事をさせていただいています。今後とも共栄できるように、最後まで無事故で良質工事をしていきます。





九州支店　副支店長
山田　憲英

声援

朝夕の冷え込みも厳しくなってまいりましたが、皆様、体調を崩されていないでしょうか。時が経つのも早いもので今年もあと一ヵ月程となりました。

自然の脅威を実感させられた台風一五号・一九号、さらに一〇月二五日の豪雨で関東・甲信越・東北地方に甚大な被害をもたらしました。災害被害最小化を盛り込んだ国土強靭化基本計画が、平成二六年六月にたてられ、平成二八年四月熊本地震・平成三〇年九月台風二一号・北海道胆振東部地震等により住民の生活や経済に大きな影響を与え、平成三〇年一二月に計画の見直があり防災・減災、国土強靭化のための三か年緊急対策が計画されました。特に緊急に実施すべき施策については、三か年の緊急対策を定めて速やかに実施するとなっています。今回の災害被害状況を見れば早急に実行しなければなりません。しかしながら、建設業は深刻な人材不足です。要因は幾つかありますが、一番の要因は一一年前のリーマンショックによって建設需要が激減し、若年層の建設業在職者が著しく減ったことです。また、三K（きつい・汚い・危険）のイメージが強く倦厭されています。大小ありますが、他業種にも三Kはあると思います。二〇二〇東京五輪・二〇二五年大阪万博・二〇二六年愛知・名古屋アジア競技大会・二〇二七年リニア開通（予定）・各都市の都市再開発、災害復興・ライフラインの整備・維持・保全と建設業が担う責務はまだまだ多くあります。また災害地では、復旧作業を被災者だけで行うのは当然ながら厳しいです。その中、ボランティアの方々が集まり家庭内の災害ごみ撤去・泥だしを行っている姿をみると日本人の温かみを感じ敬服します。

しかしながら、被災された方々が元の生活ができ、災害に負けない街を築くのは、我々建設業で非常に大きな役割を担っています。昨今、建設業界のみならず、どの業界も人手不足に陥っています。働きやすい環境を整えるため、安倍晋三内閣が「働き方改革」を提唱し、労働生産性向上・非正規雇用の格差改善・長時間労働の是正をもとめられています。建設業で働き方改革を考えると労働時間に集中してしまいます。しかし、その一点を改革しても個々のやる気が上がらなかったり、生産性の改善向上がなければ企業の発展・従業員の生活向上はないでしょう。これからは、顧客・従業員を満足させこれから働く若人に魅力ある環境にすることが必要です。個々の意識改革として、決められた時間内に効率的にその日の業務をやりきり、残業が当たり前の働き方の改善、意欲的に生産性の高い仕事をして有給休暇等、休日を確保しプライベートを充実させることが重要です。これを実行できれば、仕事でのストレスも少なくなり健康促進となります。また、特定の人に過度な業務負担にならないよう各部署でコミュニケーションを図りワークシェアすることも重要です。また、近年では建設業で働く女性を「けんせつ小町」の愛称で呼ばれ貴重な人材として活躍しています。ひと昔前には、概ね男性ばかりの職場でしたが、昨今では女性の技術・技能者も増え、また外国人技能実習生も各現場で貴重な人材として活躍しています。貴重な働き手である多くの若者がIT関係の職業に憧れをもっている時代、自分の手で技術を身に付けたいと考える若者も少なからずおります。このような若者を増やし、ICTを活用して若者に興味をもってもらい、機械のサポートによって経験が少ない技術者でも安全に施工できるように改革しています。建設業に興味を持つ若者を増やすよう取り組み、受け入れる環境を整え、魅力ある建設業界にするには皆の力が必要です。わが社は、「建設で拓く豊かな都市づくり」をモットーに、日々の改善・改革意識を持ち、建設人として地域・社会に必要とされる会社になるよう努めております。

最後になりますが、度重なる台風・豪雨によって被災された方々の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

名古屋支店　工事部
部長　前田　哲良

共生共遊

追悼

・私事で恐縮ですが、空気の様な存在の家内でしたが、霊山に旅立ち、一人残され寂しい時空間の中で自分をどう立ち直させるか。

・仏教では四苦、生老病死、死は誰人にも必ずくると教えています。判り切った事ですが自分の事として捉えきれず、初七日、月命日、四十九日法要と残った者の仕事としてこなしながら、早く日常を平常心を取り戻さなければならない。

・長女、次女、三女がお父さん大丈夫と言いながら掃除、洗濯、ゴミ出し等、時には食べていると言って食材を届けてくれます。そうか家内が家族を繋いでいるのか、今まで気付かなかった家族という絆。

・辛い事、苦しい事、楽しい事、嬉しい事、数ある中で前向きに生きていく材料探し、嬉しい事、日記を記すようにしました。

・一〇月一〇日、長男の子、志望大学へ合格の朗報。

・一〇月一二日、台風一九号自宅、センター被害なし。

・一〇月一三日、千曲川決壊、氾濫。川の近くに住む名昭技建秋山邸被害なし。管理本部庄田君、全店被害なしの連絡あり。

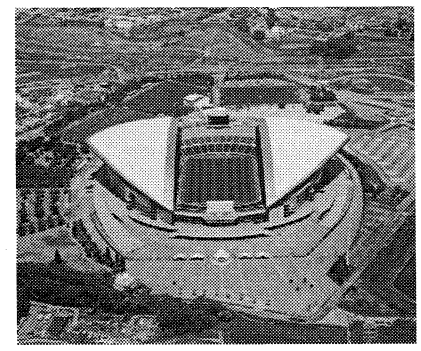
・一〇月一四日、長女、柿とみかん、次女、お菓子を仏前にと届けてくれる。

・一〇月一六日、孫が食事に行かないかと訪ねて来る。嬉しい事探し、探さなくても記せないほど沢山ある。

・勤務するセンター職員それぞれ責任を果たしている。半年ぶりに出張から戻ってきた増田君や山下君、皆んな元気。職場の一人一人全て家族、安全で健康な職場づくり、この大目的を生き甲斐にしていきなさいと故人から諭されていると結びます。

顧問　豊住　満

事業所だより



今年も残すところ二カ月となりました。一一月に入り今年一番の冷え込みと思いきや、昼間は夏日和の気温と寒暖差が激しい日々を過ごしております。

昨今、台風一九号による被害情報や沖縄県、岐阜県の世界遺産である首里城、白川郷と立て続けに火災被害のニュースがあり、心が痛い思いです。

さて我が東京支店埼玉営業所だよりとして、入社一九年目の松本智代が紹介します。

当営業所は東北自動車道、浦和インターチェンジの近くにあり、赤で埋め尽くされる浦和レッズの本拠地である埼玉スタジアムが近いため、営業所の最寄り駅であるＪＲ武蔵野線東浦和駅も試合開催時には大変賑わいます。また最も身近なニュースとしては、営業所の近くで有名な某テレビドラマの撮影が三日間程あり、有名な俳優の方が来ていました。

営業所の業務状況としましては職員八名で、坂井所長をはじめ、事務員二名、現場管理者五名になります。ただ今期より杭抜き、破砕工事、先月からは東北営業所の太陽光の現場へ一名、岩手県の土壌改良現場へ一名と二名が出張に出ている関係で少人数の管理者でなんとか業務を行っている状況です。

埼玉営業所だけでなく、各支店、営業所も大変な状況の中、一人ひとりの頑張りがひとつになり、今期末の目標に向かっていることだと思います。また、来月からＳＡＴコラム工法の施工も予定しています。

協力会社の皆様、社員の皆様、これから厳しい寒さとなります。インフルエンザの流行も早いです。十分な健康管理、事故の無いよう、時間にゆとりを持った行動を取り、自分にできる力を発揮して頂きたいと思います。

来年は東京オリンピックの年です。東京にお越しの際は是非、埼玉にもお立ち寄りください。

東京支店　埼玉営業所
松本　智代

トラブル事例から学ぶ学習会に参加して

一〇月二六日に本社三階会議室にて、トラブル事例から学ぶ学習会が開催されました。

初めに、本社営業本部、六鹿取締役営業本部長より、本会議の趣旨の説明を頂き開幕致しました。次に各代表者によるトラブル事例の発表がありました。

当社は工法が多種多様あり、また顧客も有り難いことに、全国に支店を持つゼネコン、地場ゼネコン、全国ネットのハウスメーカー等様々で同様のトラブル事例に踏まえ顧客のニーズに応えての対応に頭を悩ませている現場担当者が多くみられました。

今回の学習会の醍醐味の一つに挙げられるのが、各発表者の問題点に当社を一〇〇億企業に押し上げた功労者の方々（取締役）からトラブルに対する対応・対策、顧客との協議等に鋭い指摘やお褒めの言葉等、生の声を頂けることです。ある発表者は叱咤激励を受ける方もいましたが、現場を知り尽くした上司からの的確な意見やアドバイスは、今後現場を任される者としてはいい勉強になり財産になったと思います。今回の学習会の収穫として、名古屋支店調査部、小嶋部長の存在でした。小嶋部長の土質に対する知識は参加者一同を納得させるほど明確な回答でした。

当社は基本一人で現場を担当します。工事の規模によっては一人で二現場、三現場を担当に持っている方もいますが、基本一人一つで会社の代表者として現場を担当します。それが入社一年生でも皆同じです。現場担当者の発言は当社代表の発言であります。ですが、会社に戻れば一社員であり、上長がいます。現場でのトラブル等で困ったことがあれば、現場担当者から上長に報告相談し、各部署でトラブルを共有し対応を議論します。その際に各支店内で解決できるか判断します。その結果、支店内で解決できずに本社や他支店の協力要請をします。その際に問題になるのが、時間とコストがかかることです。当社は工事依頼を受けて、一週間内に現場に乗り込む事はよくある話です。そこで対応に時間がかかれば、現場サイドは勿論、顧客にも迷惑を掛けてしまいます。それでは意味がありません。そこで求められるのが、迅速な対応ができる会社、組織作りです。

冒頭で話した小嶋部長同様に、当社はあらゆる面で専門職に知識が多い方が各支店にいます。その方々の知識は、当社の財産であり、現場に携わる担当者にとっては凄く力になります。その方々の知識をもっと、現場や職域で活用できる様に、風通しのよい職場づくりをしたいものです。

今年はラグビーのワールドカップで日本中が凄く盛り上がりました。当社も「ワンチーム」でスクラムを組み常日頃の現場トラブルに立ち向かっていける会社、組織を作り上げましょう。そして次回からの学習会は、トラブル事例ではなく、トラブル事例を回避した成功事例発表の場として開催をしましょう。

九州支店　熊本営業所
所長　**瀬底　正頼**

構造物修復工法研究会発足

かねてよりご案内させて頂いていました構造物修復工法研究会の設立総会を一〇月二五日に迎えることができました。当日は生憎の大雨でありましたが、大勢の方に参加して頂きました。参加された方々におきましては足元が悪い中、ありがとうございました。

・入会者　正会員　一八社
賛助会員　九社
計　二七社

設立総会参加者　四七名

当日は、弊社加藤社長の開会の挨拶からスタートし、発起人であります豊住顧問より当研究会の趣旨説明や本会への想いをお話して頂きました。議事は、本会の会長であります㈱三東工業社の奥田社長様の代理で同社の細川代表取締役専務様に災害時でのサポート等のお話を頂戴しました。また技術顧問であります岐阜大学の八嶋教授様、㈱ＷＡＳＣ基礎地盤研究所の高森社長様に挨拶を賜りました。最後に副会長であります㈱グランテックの永井副社長に締めて頂き終了しました。

後に開かれました懇親会では、会員様のＰＲの時間を設けたり、各会員様同士での交流を図って頂き、良いスタートになったと思います。

本会は、「協業」「狭小地・低空頭」「省エネ」をテーマに、研究開発、営業力の向上の展開をしていきたいと思っております。建設・土木会社から機材会社など様々な会社様で構成され、協業による相乗効果の可能性を秘めています。まだこれからの研究会ですので、皆様のお力添えを賜り、将来性のある研究会へと発展させていく所存でございます。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

研究会本部事務局
米村　健

ひとり言

・愛するジャッキ君、君はなんて小さくて力持ちなんだ。静かで物思い深く騒音も出さない、振動も起こさない、その上スペースも取らない良い事づくめでないか。

・君との出会いは推進工事。私は君が大好きで大好きで少し余裕ができるとまず君をゲットしてきた。その数ゆうに大小五〇〇本は超している。

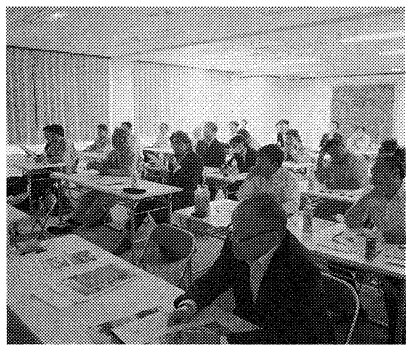
・君は私の期待に答えて太洋に豊かな実りを持ってきてくれました。その大好きな君達が今は寂しそうにいつになったら俺の出番は来るのかと叫んでいる。

・そうだその叫びに答えなければならない。もう一度君の出番を作らねばならない。その思いが通じたのか、遂に遂に君の出番の時がきた。君らしい君の舞台を作る時がきた。構造物修復工法研究会設立で、君は新しい舞台で今迄以上に大歓迎受けて華々しくさっそうと登場するのであろう。

・愛するジャッキ君達、もうセンターの片隅で遠慮して眠っている事はない。いよいよ次の主役は俺だ、本番だと、君が大好きな私は君の舞台を作りました。私と一緒にもう一度頑張ろう。

一〇月吉日、少しアルコールを楽しみながら何となくこんな事を記していた私のひとり言。

顧問　**豊住　満**



社長室だより　月間ＭＶＰ賞

受賞者
施工本部　米村　健　殿
名古屋支店　開発部
課長　服部　堅志　殿

積水ハウス様と共同開発を行ったＳＡＴコラム工法が、建築技術性能証明を取得しました。施工能力範囲を拡大した同工法は、現在施工実績を着実に上げております。新しい営業種目の確立に大きく貢献した二名を月間ＭＶＰ賞に推薦します。

推薦者
代表取締役　加藤　行正

受賞者
大阪支店　営業部
部長　廣瀬　雅彦　殿
水科　孝　殿

久本組様・大阪尻無川堤防工事の施工にあたり、土地勘のない静岡支店が携わる中、過去の実績を踏まえた強力なサポートにより無事良質施工で終え、お得意様の高評価も頂くことができました。よってここに月間ＭＶＰ賞に推薦いたします。

推薦者
静岡支店　常務取締役支店長
奥山　喜裕

共済会だより

☆新しい仲間
一一月一日
落合　優翔
東京支店　工事部